

2023年  
12月1日  
第477号



# JR東海労



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5  
Tel 03-3201-0350 FAX 3201-0351  
Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

JR東海労働組合  
発行人 淵上 利和  
編集人 高山 浩

http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/

## 不満を表明し交渉を集約

### 2023年度年末手当



交渉の激励に訪れたJR総連八幡副委員長

本部は11月16日、2023年度年末手当について会社に不満を表明しつつ、妥結を通告しました。本部は10月2日、「2023年度年末手当に関する申し入れ」(「申第7号」として、3・5ヶ月分の年末手当支給、プラス1人10万円支給、更に専任社員にプラス5万円支給、不当なボーナスカットをやめることなどを会社に申し入れました。

JR東海は、今年度の中間決算を発表、連結純利益1,950億円を計上しました。また、通期連結純利益予想を2,500億円から3,080億円に上方修正しました。このことから、要求通りの回答を引き出すことができるまでに、会社の経営体力は回復して

います。2023年度年末手当については、組合員・社員が日頃から安全・安定輸送を担ったのは勿論、急増した旅客対応を適切に行った結果である。まずは、その努力に報いなければならぬ」と前置き、「3・0ヶ月しか要求していない組合があるが、3・0が上限か」と質問しました。会社は「議論経過を踏まえ決定する」と回答し、3・0ヶ月以下ありきではないことを確認しました。

「この間、コロナ禍による減収を理由に、期末手当は5期連続で大幅に減額された。減額された分も上乗せする必要はある。コロナ禍での3期ぶりの黒字決算は、組合員をはじめとする社員の苦勞の賜である。安定的支給ベースとなるものは、業績が良いときは支給額を抑え、業績が悪いときは遠慮なしで減額するものだということが明らかにされた。物価が上昇し生活が苦しくなる中、今年度の新賃金は実質わずか1,000円のベアであった。その分も補填するべきだ」

「リニア建設が相当な負担となっているのでリニアは中止しろ」「組合員が納得しない恣意的な不当ボーナスカットを行うことはJR東海労への不当労働行為である」などと主張しました。会社は「組合の主張は検討するし、コロナ禍での社員のがんばりや苦勞は否定しない。しかし期末手当は、世間相場、将来展望等も加味し総合的に勘案しながら決定していくものであり、短期的な動向ではなく、長期的に安定支給することが大事である」と考える。経済や当社を取り巻く情勢は厳しい。安定的支給ベースは、ある程度の黒字があることが条件だ。ベアの議論は新賃金の交渉で行うもので、物価上昇と一時金とは別物である」などと、支給額を抑えるための回答に終始し、対立しました。本部は「3・5ヶ月は十分出せる金額だ。満額回答を要求する」と主張しました。

「11月9日に開催した第3回団体交渉で会社は、「2023年度年末手当は2・95箇月分支給する」と回答しました。会社が言うところの安定的支給ベースは2・9ヶ月を極わずか0・05ヶ月の上積みでした。本部はこの低額回答に對して、昨年よりも遙かにがんばってきた社員の苦勞に全く応えていないことに抗議し、その席上、「申第8号」として再申し入れを行いました。

「第4回団体交渉(再申し入れ)」(「申第8号」)に基づく団体交渉(再申し入れ)を、11月14日に開催しました。本部は「職場では、多くの社員は『2・95ヶ月の回答は少ない、減額された分を上乗せすべきだ。仕事をやる気になれない』などの意見が出ており、不満が渦巻いている。その気持ちを真摯に受け止めるべきだ。社員や家族の苦勞に出来ないで、『業務改革、収益の拡大に更に力強く取り組んでいくことを強く期待する』という会社の考えは社員に通じない。社員に伝えなければ数字で示せ。今年度の中間決算とほぼ同額の利益を上げた2016年度は、年間6・05ヶ月支給している。これを基準にすれば、夏季手当2・7ヶ月を差し引き3・35ヶ月が最低ラインだ。2005年度では、今中間決算より収入が低くても年間6・1ヶ月出ている。要求通りの満額回答をせよ」と迫りました。

しかし、会社は「当社を取り巻く環境、経営状況などを勘案、検討した結果、社員の負託に応える十分な回答であり、これを撤回する考えはない」と、不誠実な対応に終始しました。また、本部は「リニアが経営の重荷になっている。リニア建設を中止せよ。役員報酬がコロナ禍前と同様に支給したと浸かり、役員はぬるま湯に浸ることになり許せない」と主張しました。会社は「リニアは大動脈輸送を担う当社の使命である。役員報酬については、分からない」と、対立しました。

本部は11月16日、中央執行委員会を開催しました。本部は、最後まで粘り強く交渉を重ねてきましたが、JR東海ユニオンの低額要求即日先行妥結という否定的な状況の中で、これ以上の前進は困難と判断し、今年年末手当交渉を集約することとしました。交渉期間中、JR総連及び加盟各単組からの激励や訪問をはじめ、各地本・分会からの支援・連帯に感謝申し上げます。

**東海の地から労働運動の灯を消すな!**  
**第40回臨時大会**  
日時 12月14日(木)14時より  
場所 名古屋ワークライフプラザれあろ



# 出向を断る理由は正当だ！ 本橋書記長、証人尋問で堂々と証言！

本橋出向取消裁判の証人尋問が11月1日、東京地裁で開廷され、原告の本橋書記長、被告側から新幹線鉄道事業本部柴田人事課長(当時)が証言しました。

最初に被告側から証人尋問が行われました。柴田証人は主尋問では滞りなく証言しましたが、反対尋問では尋問の趣旨に答えられない証言に終始しました。苦情申告や面談でのやり取りを例に出しながら「本橋さんは出向に

同意したのか？はい、いいえで答えるように」と尋問されると、はい、いいえのどちらとも答えず、本橋書記長が「同意していない」と主張し続けたことを、頑なに認めようとしませんでした。

また、驚いたことに「JR東海労組員が出向取り消しを求めた裁判で、出向が取り消された事例は知ってるか」との尋問に、淵上さんの人事運用の責任者かつ、淵上裁判の証人でもある柴田証人

は「淵上さんは(職場)の異動である」と証言し、出向が取り消された事実を認めませんでした。これには、傍聴席の冷笑を買いました。

原告の本橋さんは主尋問で、出向に同意していないことや出向を断る正当な理由があることを、面談や苦情申告などで一貫して主張してきたことを具体的に堂々と訴え、会社が出向によって組合活動を制限することは、

JR東海労の組織破壊を意図した不当労働行為であることを主張しました。従って出向命令と出向先をSEKとする専任社員雇用契約を取り消すこ

と、SEKに勤務する義務がないことと、東京就業検査車両所の車両技術係として勤務する地位にあることを裁判所に強く訴えました。

反対尋問で会社側弁護士は、誤った主張・解釈を展開し、あたかも本橋書記長が出向に同意して専任社員雇用契約を締結したと描き出そうとしました。しかし、本橋書記長に反論され、挙げ句の果てには、出向とは全く無関係の本橋書記長の不動産について尋問するなど、傍聴していた組合員からは「呆れた」という意見が相次ぎました。

次回の期日は1月24日で、最終弁論の予定です。

## 袴田さんの無罪判決を勝ち取るぞ！

### 静岡地本が各種取り組みに参加

#### 再審公判の取り組み



袴田さんの再審(やり直し裁判)公判が10月27日から静岡地裁で始まりました。静岡地本組合員・OBは、傍聴券の抽選や各支援団体が開催する支援行動に参加してきました。

第2回公判は11月9日に開廷され、静岡地本の木下さんが傍聴券の抽選に当選し、公判を傍聴しました。

傍聴券抽選発表までの時間、裁判所前の駿府城公園入口で、支援団体によるミニ集会が行われ、JR東海労組員も参加しました。

公判では、袴田さんが着用したとされる5点の衣類が争点となり、この衣類について、静岡地裁は「捜査機関が捏造した疑いがある」と指摘し、東京高裁でも「捏造された可能性が極めて高い」と判断しています。

公判側は、5点の衣類の間を、線路(過密ダイヤ)を2往復横断することとは物理的に無理だということ、弁護人は追及しました。しかし検察側は、侵入方法を明らかにしていません。

第3回公判は11月20日に開廷され、静岡地本半場委員長が傍聴券の抽選に当選し、公判を傍聴しました。

## 中日新聞社との意見交換会

「浜松 袴田さんを救う市民の会」と中日新聞社との意見交換会が11月13日、浜松市内で開催されました。意見交換会

には、同会員でもある静岡地本組合員も参加しました。

袴田さんが容疑者とされた段階から、マスコミ

は袴田さんが着用したと主張し、捏造を否定しました。

取り止めと、傍聴席拡大を裁判所に要請した。要請行動には、JR東海労静岡地本組合員も参加。

各社は警察情報を鵜呑みにし、犯人であるかのよう

## 晩秋の下呂富士・中根山！ 第26回登山大会



JR東海労は11月12日、岐阜県下呂市の中根山(下呂富士)において、第26回登山大会を開催しました。組合員、OB、家族16名が参加しました。

下呂には日本3大温泉に数えられる名湯が湧き

出しており、一度枯れてしまったが白鷺が別の源泉を教えて今に至っているという伝説があります。

初日は開会式と夕食懇親会を行い、懇親を深めるとともに翌日の登山に

向けて英気を養いました。翌朝から登山開始、途中、「温泉寺」で登山の安全を祈願しました。